

紀伊半島大水害から10年

かけがえのない

命を守るために

問
 県庁危機管理・消防課
 ☎073・441・2273
 県庁防災企画課
 ☎073・441・2271

10年前の平成23年9月、紀伊半島を襲った台風12号は、県内各地に甚大な被害をもたらしました。

県では、この紀伊半島大水害との闘いの経験や東日本大震災などへの職員派遣で得た知見を活かしながら、将来の自然災害から県民の命を守るため、きめ細かく、さまざまな観点からの防災対策に全力で取り組んできました。

県民の皆さんも、いざというときに落ち着いて行動できるよう、日頃から災害情報を確認するなど、準備をしておきましょう。



お話を伺いました



新宮市熊野川町在住
内野井 美津恵 さん

当時、大雨は続いていましたが、家の下の道路が浸水したことはなく、まして道路より高い場所にある我が家が浸水するとは思っていませんでした。それでも、川の水が溢れて、9月3日の夕方には道路が浸水し、近くの避難先への避難も難しかったので、大急ぎで荷物を2階へ上げて、家族も垂直避難をしました。そのとき、避難の持出品を準備していたのに、慌てていたので1階へ置き忘れました。その日の深夜、2階まで浸水が進むなか、暗闇の中で近所の方の手こぎボートで救出されました。ダム放流のサイレン音が鳴り響き、出産予定日間近の娘を気遣いつつ避難した経験は恐怖でしかありません。災害時には、避難準備をして焦らず早めに判断したり、地域の方々と助け合える関係を築いておくことが大切だと思います。

紀伊半島大水害の記憶

甚大な被害

台風12号では豪雨による土砂崩れや河川の氾濫などにより、県内の死者・行方不明者61名、建物被害8,465棟という甚大な被害が発生するなど、県史に残る大惨事となりました。

また、県道など計180カ所が通行止めとなり、最大40地区の孤立集落が発生しました。さらに、停電、断水、通信障害なども県内各地で発生し、県民の日常生活に大きな被害をもたらしました。



提供/熊野新聞社
新宮市熊野川町日足地区



紀南地方を中心に大規模災害が発生



日高川町高津尾地区



田辺市熊野地区



那智勝浦町井関地区他

救助・応急復旧

まず優先すべきは人命救助であるため、自衛隊などの関係機関と連携し、延べ263機のヘリコプターによる救助活動などを行いました。また、官民一体となった復旧活動により、県内の主要道路や河川の応急工事を約2カ月で完了するなど、迅速な応急復旧を成し遂げました。



ボランティアによる泥出し



消防隊員などによる捜索



ヘリコプターによる救助活動



復旧後

復旧前

道路の応急復旧



復旧を阻む廃棄物を早期撤去